

# 可睡齋「活人剣」

平成27(2015)年9月竣工の活人剣



剣・台座制作:宮田亮平

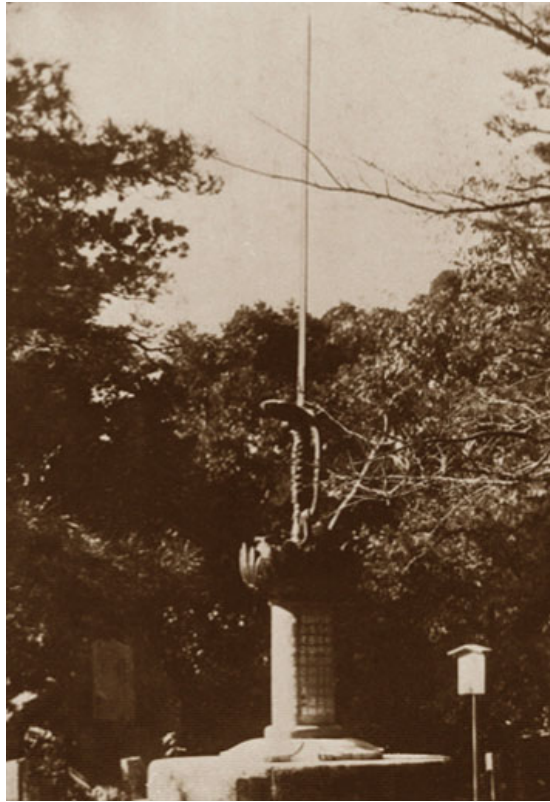
(東京藝術大学学長)

台座は、可睡齋を代表する花であり、中国でも愛されている牡丹と、作者が制作活動のテーマとしているイルカを題材とし、「日中友好の架橋」となることを願って制作された。

(牡丹の花びらは海の波、イルカは海を越えて行き交う日中の人々)

全高：6.39m 剣・台座4.22m：銅・ステンレス  
基壇2.17m：御影石

明治33(1900)年9月竣工の活人剣



剣制作:高村光雲

(東京美術学校教授)

陸軍軍醫總監醫學博士の佐藤進が、清國講和全権大臣李鴻章のけがを治療し無事に快癒させた名譽と、李の難問に明快な解答をした功績とを、長く後世に伝えるとともに、日清戦争で亡くなられた両国の方々を敵味方の区別なく供養しようとの願いから、この活人剣は建設された。

全高：廿尺(6.06m) 剣・露盤：銅鑄  
円柱・台座：石材

